

★クマ被害未然防止

留意点	①全国及び長野県内では、クマによる被害が起きている。 ②このため、関係機関等との連絡体制の構築や環境整備、見守り活動（コミュニティ・スクール等）、クマの生態等正しい知識を学ぶ被害未然防止のためのクマ教育の充実等が必要である。	
学校安全体制	ポイント1 連絡体制を整備する ☐教育委員会、警察、関係機関等との連絡体制 ☐保護者、地域等との連絡体制 ☐夜間・休日等を考慮した連絡体制 ※連絡体制に関するフロー図例は P31-(3)を参照 ポイント2 クマ出沒に関する情報収集の方法を整備する ☐「けものおと2」の活用（長野県） ☐ツキノワグマ情報マップ・目撃情報一覧の活用（長野県） ☐県警アプリ「ライポリス」の活用（長野県警） ☐クマに関する各種情報の活用（環境省） ポイント3 通学路・学区内の安全点検を実施する ☐通学路の安全性の検討 ☐学区内の山林や河川林、緑地等危険な箇所がないか確認 ☐通学路沿いに見通しの悪い藪がないか確認 ☐通学路及び周辺でクマ目撃情報がある場合は、必ず通学鞆にクマ鈴をつける ☐クマを誘引する可能性がある箇所がないか確認 ☐バス停までの道のり及びバス停周辺の安全点検 ※学校安全体制の詳細な確認は、チェックリスト1を参照	けものおと2 検索 iPhone/iPad Android 長野県 ライポリス 環境省
環境整備	ポイント1 校内及び校地内の環境整備をする ☐クマが隠れにくい環境、校地と山林等との緩衝帯の整備 ☐人的な要因である誘因物に対する整備 ☐生ごみ等・燃料等を入れる倉庫は夜間必ず施錠 ☐空き缶等収集している場合の蓋付のコンテナに入れる等の対応 ポイント2 通学路・学区内の環境整備をする ☐通学路に隣接またはつながる山林、河川林等の整備 ☐学区内でクマが出沒する恐れのある箇所等の整備 ☐長野県クマ対策員等への現地確認の依頼 ※環境整備の詳細な確認は、チェックリスト2を参照	
クマ教育の充実	ポイント 各教科等及びクマの専門家との授業等による教育の充実 ☐クマの生態・クマとの共生について正しい知識を学ぶ ☐クマに遭遇しないための方法について学ぶ ☐クマに遭遇した場合の対処方法について学ぶ ※クマ教育の詳細な確認は、チェックリスト3を参照	信州クマ研 信州ツキノワグマ研究会では、学校向けクマ授業を実施しています。ハンドブックやカルタ等教材も作成されています。

2章1 未然防止（平常時）の対応

クマ被害防止対策チェックリスト

学校現場等での取組を確認するためのチェックリストです。各項目においてクマ被害予防対策のポイントを整理・確認すること等の参考としてください。

1 連絡整備・情報収集・学校安全体制等

チェック	内容
☐	①危機管理マニュアル等に、クマ未然防止対策及びクマ被害発生時の対応について記載している。
☐	②連絡体制をフロー図等で示し、関係機関等と連携できる準備をしている。
☐	③登校日、夜間、休日等状況に応じた対応ができるように想定している。
☐	④保護者・地域への情報提供及び注意喚起を行えるように準備している。
☐	⑤ツキノワグマ情報マップを活用し、目撃情報一覧を閲覧できるように環境を整え、必要に応じて情報を把握している。
☐	⑥「けものおと2」「ライポリス」等を活用し、クマの目撃情報や被害情報、実用的機能をスマートフォンアプリで共有できるように準備している。
☐	⑦日常の安全点検の際、クマ被害防止の観点で安全点検をしている。
☐	⑧通学路について、クマ被害防止の観点から点検をしている。
☐	⑨学区内における山林や河川林、緑地等の危険個所がないか点検している。
☐	⑩状況に応じて、警察等関係機関へのパトロールの依頼をしている。
☐	⑪コミュニティ・スクール等との安全体制の連携や、児童クラブ、地域の公共施設、こどもを守る安心の家等、緊急事態に受け入れてもらえる施設等と連携をしている。
☐	⑫児童生徒、保護者等のメンタルヘルス対策について、事前に体制を構築している。

※⑦⑧⑨等点検については、クマ対策委員へ依頼することも考えられる。

2章1 未然防止（平常時）の対応

2 環境整備（安全点検等）

チェック	内容
☐	①日常の校地内安全点検の際に、クマ被害防止の視点を位置付けている。
☐	②校地内の生ごみ・空き缶等の集積所や燃料・塗料類の保管庫等は、必ず夜間施錠をしたり蓋を閉めたりするなど、適切に管理している。
☐	③校地内の実のなる木は、必要に応じて早期収穫・枝打ち・剪定をする等、適切に管理している。
☐	④校地内の雑草等を刈り払い、見通しをよくしてクマの隠れ場所をなくしている。
☐	⑤校地内の畑等で作った野菜等は適宜収穫し、収穫後は残った農作物が誘因物にならないように適切に処理・整備している。 （トウモロコシ等誘因する野菜の栽培に留意することも対策となる）
☐	⑥家庭科や総合的な学習の時間等による調理等で食品を扱った際は、生ごみ等が誘因物とならないように事後の処理を適切に行っている。
☐	⑦通学路において危険と判断される箇所があった場合は、行政機関及び警察等と連携して情報共有を図るとともに、適切に対応している。 ●通学路の変更 ●草刈り等による環境整備（見通しの確保） ●警察等によるパトロール ●クマ対策員等に点検を依頼
☐	⑧学区内において危険と判断される箇所があった場合は、警察や行政等関係機関と連携して情報共有を図るとともに、適切に対応している。 ●草刈り等による環境整備（見通しの確保） ●関係機関等によるパトロール
☐	⑨保護者・コミュニティ・スクール等と連携し、共同作業等で校内や学区内の環境整備を実施している。

特に注意が必要な箇所（環境整備を検討する箇所）

- 木の茂った斜面
- 草が茂って見通しの悪い場所
- 河川沿い等移動経路になりうる場所
- 林等を抜ける場所
- 地域の農園や田畑
- 通学路と隣接した林や河川林等

※クマ対策委員に点検を依頼することができる。

2章 1 未然防止（平常時）の対応

3 教育の充実 （学校、教職員、児童生徒が正しく理解できるようにする）

チェック	内容
☐	①発達段階に応じたクマについての正しい知識を習得するための学習を各教科の教育計画に位置付けている。 （生活、社会、理科、保健、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等）
☐	②クマについて理解している。 ●大きさ、性格、食べる物、冬眠する生態であること ●季節や環境によって行動の仕方があること ●足跡、食痕、音、糞等、出没するエリアのサインに気を付けること ●攻撃してくる場合には理由があること ※出没する地域によってそのクマの特徴に違いがある
☐	③クマに遭遇しないための対策が一番大切であり、具体的な方法を理解している。 ●クマについての出没情報等を事前に収集・把握しておくこと ●通学路でクマが潜みやすい場所は特に注意すること ●音を鳴らす・おしゃべりをする等人間の存在を伝えること ●ごみをきちんと片付けること
☐	④クマに遭遇した場合の対処法を理解している。 ●クマに背中を見せず、静かにゆっくりと後ずさりすること ●大声をあげたり石や棒を投げつけたり走ったりしないこと ●子グマの場合は、近くに母グマがいることを想定しておくこと ●ランドセルやヘルメット等が体を守る役割となること
☐	⑤クマが攻撃してきた場合の対処法を理解している。 ●うつ伏せになり、両手を首の後ろに回し動かないこと ●リュック等が頭部や背中を守る役割となること ●顔、首、お腹を狙って攻撃してくることを想定して体を守る



※内容については、発達段階を考慮して行う。クマ対策員等のクマの専門家による授業を取り入れることも考えられる。

2章 1 未然防止（平常時）の対応

4 登下校及び教育活動等の実施の検討（地域でクマ出没情報が発出された場合）

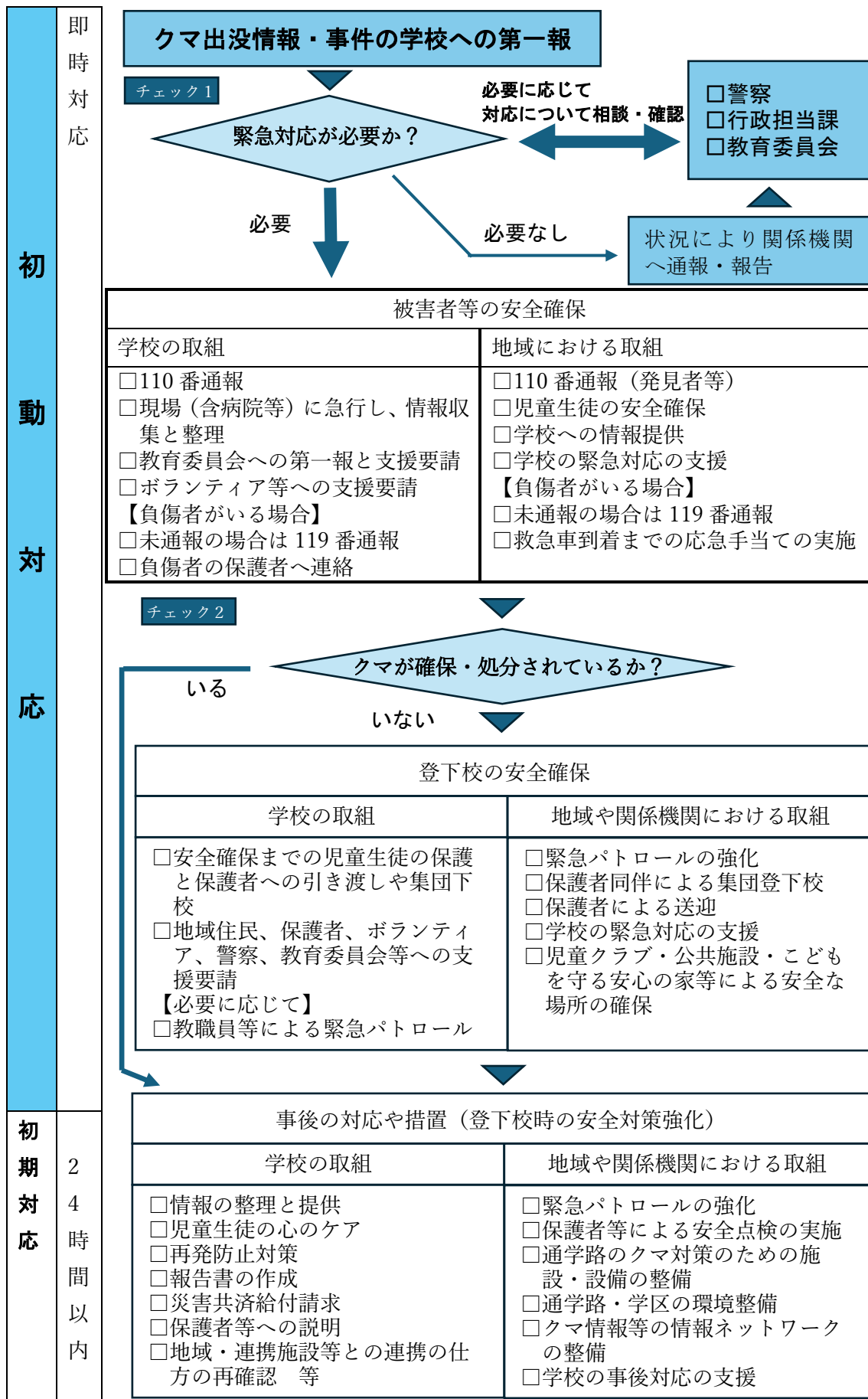
チェック	内容
☐	①児童生徒の登下校について、安全確保に向けた対応を検討している。 ●登下校に関する対応方針の保護者への周知 ●保護者による送迎のお願い及び引き渡しの徹底 ●オンライン授業による対応 ●登下校時間の変更及び休校等の措置の検討
☐	②通学路等見守り活動を行う際は、関係機関と連携し、教職員が自らの安全を確保できる方法により行っている。 ●クマ対策用グッズの携帯 ●複数による配置 ●関係機関との連携（警察、行政、コミュニティ・スクール、クマ対策員）
☐	③近隣でクマが出没した場合、屋外での活動については、出没状況を踏まえ、教育委員会等関係機関の指導・助言のもと判断している。 ●原則学習活動の中止の検討 【※出没する可能性が低く、屋外での活動を実施する場合】 ●教職員による見守り体制の強化 ●クマに遭遇した場合の行動について児童生徒と確認 ●「藪がないか」、「誘因物がないか」の確認 ●音を出すこと等、クマに出会わない対策の実施 ●万が一の場合に備えての避難経路や避難場所の確保
☐	④教育活動等に関する対応方針について、保護者に周知し、理解を図っている。 ●関係機関からの情報について、随時保護者等へ提供 ●注意喚起の実施

クマ対策用グッズ（教職員の見守りの際の携帯品例）

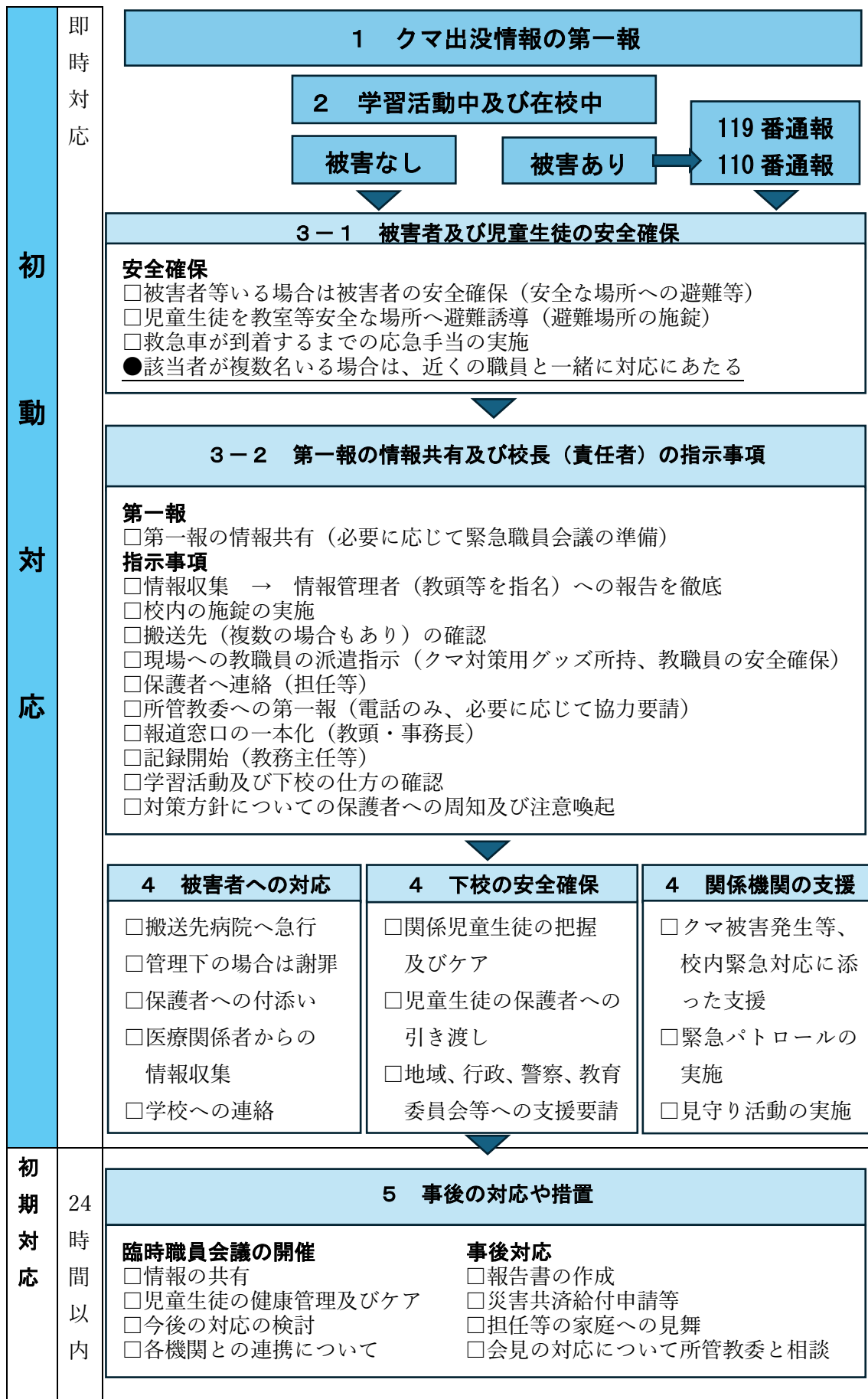
- クマスプレー
- ヘルメット
- 背中を守るリュックサック
- クマ鈴
- 音楽を流せるスピーカー
- 笛



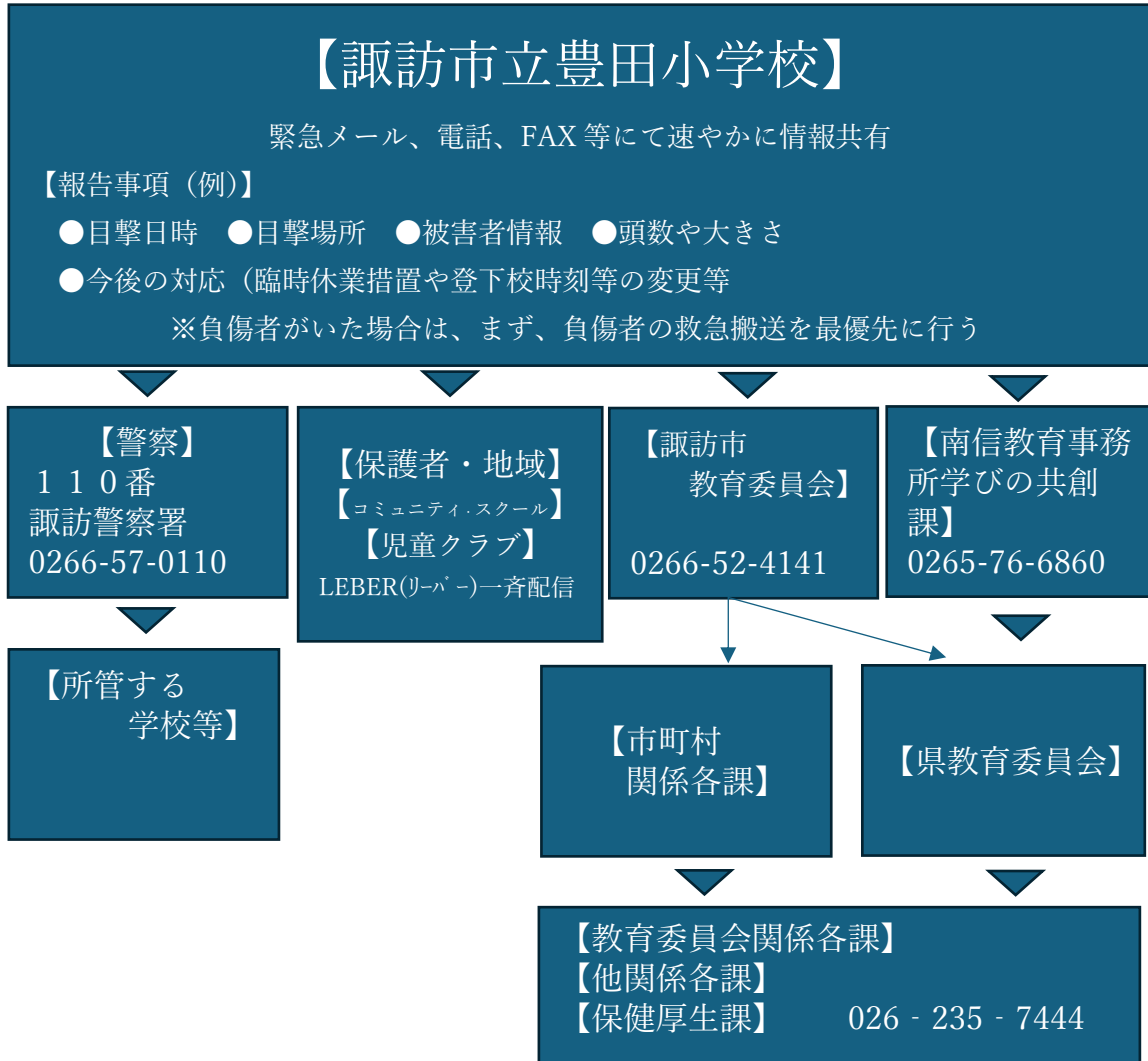
■クマ出没 登下校時の対応



■クマ出没 学習活動中・在校時の対応



■クマ出没時 緊急連絡フロー



【時間外の場合】

夜間や休日に事案が発生することも想定しておく。（早期対応メンバーの検討）
【校長、教頭、教務主任、安全係主任、養護教諭 等】

各学校からメール配信 ※開封確認（既読）機能を活用し、確認漏れのないようにする。
 例）【重要】豊田小 クマ情報です。
 昨夜▲▲時頃、××地区◎丁目地内において、体長約1mの母グマと、体長0.5mの子グマ2頭を目撃情報がありました。
 警察には、既に登校時における学校周辺のパトロールを依頼しました。

×/××（火）明日の登校については、以下の点に留意いただき対応いただきますようお願いします。

- ①可能な限り複数での登校をすること
- ②くま鈴等、音が鳴るものの携帯すること

以上、よろしくお願いいたします。

出没時緊急対策の例

- 出没場所や通学路の安全点検の実施 ●藪等の刈り取り作業（可能な範囲で）
- くま鈴、ペットボトル等音のなるものの携帯（日常から原則持たせることも検討）
- 保護者等による安全な送迎・保護者への引き渡し ●集団登校・集団下校